

これからがん治療をはじめる方へ 将来、子どもがほしい方、迷われている方へ

このリーフレットは、^{にんようせい}妊孕性温存についての基本的な内容が書かれています。
患者さんご自身が、パートナーやご家族、がんの治療を担当している主治医、生殖医療の専門医と十分に話し合い、選択していける手助けになれば幸いです。

将来、子どもがほしいけど…

妊孕性温存治療って何？

どのような方法があるの？

費用はどのくらいかかるの？

早くがんの治療をしないと
病気が進んでしまう？

家族間で意見があわない



妊孕性とは

妊孕性とは、男女を問わず「妊娠する力」のことを言います。がん治療（抗がん剤や放射線治療）の影響により、妊娠する力が低下または失われることがあります。



知っておいてほしいこと

- ①妊孕性温存治療の前に、がん治療が優先されます。
 - ・がんの治療を担当している主治医の先生と、がん治療や妊孕性温存治療について話し合い、生殖医療専門の施設（医師）を受診する必要があります。
 - ・がんの病状や精巣や卵巣の状況によっては、妊孕性温存治療を行うことができない場合があります。
- ②妊孕性温存治療には、「未受精卵子凍結」「胚（受精卵）凍結」「卵巣凍結」「精子凍結」などがあります。（裏面をご覧ください）
- ③生殖機能温存・妊孕性温存療法は、100%の妊娠・出産を約束するものではありません。

岩手県にお住いの将来お子さんを希望されるがん患者さんへ

にんようせい

妊孕性温存治療について

女性の妊孕性温存治療

胚（受精卵）の凍結保存：

男性パートナーがいる女性の場合

採卵した卵子と男性パートナーから採取した精子を容器を用いて受精（体外受精）を行います。数日間培養して発育を確認した胚（受精卵）を凍結し保存する方法です。

未受精卵子の凍結保存：

男性パートナーがいない女性の場合

排卵誘発剤にて卵巣を刺激した後、卵巣に針を刺して採卵します。採卵した卵子をそのまま凍結し保存する方法です。

卵巣組織の凍結保存：

時間的な余裕がない女性や年少の女性の場合

卵巣の一部を腹腔鏡下に取り出した後に、凍結保存する方法です。

男性の妊孕性温存治療

精子の凍結保存：

男性の場合

射精などにより精液を採取し、精子をいくつかの容器に分けて凍結保存する方法です。顕微鏡で見ながら手術的に精巣から精子を取り出す方法もあります。

温存後生殖補助医療について

がん治療後に、子どもをほしいと思ったら、保存していた胚（受精卵）、未受精卵子、卵巣組織、精子を使用して妊娠を目指します。

医療費助成について

妊孕性温存治療は、健康保険が適用されません。胚や卵子、卵巣の採取だけではなく、永年にわたっての凍結保管について費用がかかります。すべて自費診療となりますが、**岩手県では、妊孕性温存治療および温存後生殖補助医療に要する費用の一部について助成制度が受けられます。**妊孕性温存の治療を受ける時点で岩手県内にお住まいの43歳未満の方が対象です。詳しくは、がん相談支援センターや医療相談室にお問い合わせください。岩手県ホームページでも情報を掲載しています。



岩手県ホームページ

- 妊孕性温存治療について考えたい、または迷われる場合は、がんの治療を担当している主治医や看護師、がん相談支援センターでご相談下さい。また、国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」などをご参照下さい。

がん情報サービス▶



がん治療・病院・相談窓口情報を発信する

岩手がん診療ポータルサイト

【運営】 岩手県がん診療連携協議会 事務局
(岩手医科大学附属病院内)

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通2丁目1-1

TEL: 019-613-7111 (内線6039)

